

全国水土里ネット会長賞

1. 地区概要

参加地区名：兵庫県 岩見地区

表彰団体名：兵庫県揖保川岩浦土地改良区

事業名等：地域用水機能増進事業 農業用再編対策事業

工期：平成12年度～21年度 平成12年度～平成16年度

主要工事：親水公園1カ所、水辺公園1カ所、用水路工L=2018m

2. 当該団体の概要

(1) 組織名 兵庫県揖保川岩浦土地改良区

(2) 設立年度 昭和24年度

(3) 設立経緯 昭和24年度に岩見井堰と浦上井堰の統合井堰、幹線水路の整備を機に設立された。

(4) 主な活動

①地域用水機能増進活動

地域用水対策協議会で、ワーキングやアンケートを実施し、取組や啓蒙の方針を決定している。

②ちいき用水だよりの発刊

年1回「地域だより」を発刊することにより、地域用水の大切さを地域住民に発信している。

③岩見用水まつり

地域内を流れる用水路を愛する心を培うために、非農家を含めた地域住民のまつりとして、岩見用水を利用して実施している。

④小学生生き物教室

小学校や公民館活動と連携し、岩見用水路の歴史や役割、用水路で生息している魚類を採取観察する「生き物教室」を実施するとともに、実施後の感想などを表した絵画や作文のコンクールを実施している。

3. 活動の概要

本事業により、水路補修、水辺公園、親水公園、魚巢、防火ピット等を造成すると共に、市町村・土地改良区・地域住民の参画によりワークショップを実施し、環境保全の向上、防火用水の確保等、農業農村のもつ多面的機能の発揮について住民主体で考えており、先進的な取組と言える。

「ちいき用水だより」の発刊、整備された施設を利用したイベント、小学校や公民館活動と連携した教室を開き、地域住民にも理解を求めるよう努め、農家・非農家一体となった取組を行っており、地域に波及効果を及ぼしているだけでなく、近隣の他地域へも影響が期待できる。

4. 農業農村整備事業の実施後の取り組み内容と効果

地域に愛される“きれいな水、豊かな生態系を育む潤いある地域用水”づくりを目標に以下の活動を行っている。

①地域用水機能増進活動

行政・土地改良区・地域住民が参画した地域用水対策協議会で、ワーキングやアンケートを実施して、取組み方針や啓蒙方針の決定を行った。

方針に基づき、イベントを実施し、農家と非農家の連帯感や地域の活性化が図れるようになった。

②ちいき用水だよりの発刊

年1回「地域用水だより」を発刊し、岩見用水の歴史、土地改良区の取り組み、イベント情報等を掲載することにより、地域用水の大切さを地域に発信した。

③岩見用水まつり

たつの市だけでなく他地域からも訪れるような市民参加のまつりであり、岩見用水路の歴史や役割を紹

介すると共に、実際に岩見用水路での「さかなのつかみどり」「用水の生き物展示」「笹舟づくり」などを行い、岩見用水路が有する多面的機能の普及活動に繋がっている。

④小学生における生き物教室

受益地内の小学校や公民館活動と連携し、岩見用水路の歴史や役割、用水路で生息している魚類を採取観察する「生き物教室」を実施している。実施後に絵画や作文のコンクールを行い、子供達が用水路の役割に関心を持つとともに自然とのふれあいを感じとるように努めている。

⑤疎水フォーラムの現地視察

平成22年度に開催された全国的なフォーラムである「疎水フォーラムinひょうご2010」では兵庫県内の優良事例として、現地見学会のコースに組み入れられ、岩見用水が全国に紹介された。

項目	事業実施前	現在
ワーキング	0回	年2回 【継続】
ちいき用水だよりの発行	0回	年1回 (1200部)
岩見用水まつり	0回	年1回 (1000人)
小学校における生き物教室	0回	2小学校 (200人) 1団体 (50人) 【継続】

5. 取り組みに対しての苦労、工夫及び地域の課題克服

岩見用水の関係者が多く調整が困難なため、主な地域毎にワーキンググループを組織し、協議会だけでなく地域の課題毎にワークショップを行ったことで、地域用水の機能増進に向けて課題の克服が容易となった。

上流部の農家・非農家の混住する地域では、岩見用水まつりへの参加協力をお願いするのに苦労したが、毎年開催する事で参加者も増加し、非農家の岩見用水への理解が深まったことが、水路を流れるゴミの減少に繋がっている。

また、防火ピットで防火訓練を実施し、従来の防火用水の役割が地域住民に確認できた。

中・下流部の田園地帯では、生き物の保全やホタル乱舞の復活などを目指すため、農家以外の人を呼び込むことを工夫し、地元小学校や地区の公民館活動と連携して生き物教室を行ったり、地元住民が直営でホタル水路やビオトープづくりを行った。

ホタル水路では、幼稚園児や小学生がホタルの幼虫を放流し、環境保全の向上に役立っているだけでなく、環境教育の一環にもなっている。

6. 本取り組みと農業

①今回の地域づくりにおける取り組みは農業や農家にどのような影響を与えたか。また、農業自体がどう変わってきたか。

今回の取組みにより、農業用水の重要性や多面的機能について地域住民の理解が深まった。

維持管理面では、水路内のゴミの減量により、管理労力の低減につながっている。

また、農家以外の人にも影響が出てきており、非農家による市民農園利用も増加している。

②環境に配慮した農業の展開、新規作物の導入について。

冬期に湛水する事や田んぼを休ませずに稲作を行う事で、生き物の多様性が増加することが理解され、合鴨農法を行っている農家も出てきているなど、環境に配慮した農業に関心をもった農家が増えつつある。

また、休耕田を利用して、新たにひまわりを植え付けその油をとる試みも行っている。

7. 今後の展望

地域に愛される“きれいな水、豊かな生態系を育む潤いある地域用水”づくりを目標に平成12年から取り組み、地域用水としての多面的機能が復活し、また活動も定着してきており引き続いて活動を行いたい。

現在では、県の単独事業（岩見用水エコプロジェクト）にも取り組み、エコロジーの感点で地域住民と

ワークショップを実施し、水田ビオトープの造成拡大やゴミ捨て禁止の啓発看板の作成を行っており、小学生への環境教育、地域住民により一層の環境保全活動の推進やゴミ捨ての防止を図っている。

今後は、地域に愛される岩見用水として、地域住民の参画のもと、保全するとともに豊かな生態系を育む環境創造型農業へと展開していきたい。



地域用水増進施設 「親水公園」



ワークショップの様子



防火ピットを利用した放水活動



環境配慮農業への展開